

## 【入選】

### 「大切な いのち」を学習して

荒尾市立荒尾第一小学校 2年 本郷 つばき

どうとくの時間に「大切な いのち」の学習をしました。わたしは、年中組のときですんでいた、あそのことを思い出しました。

わたしは、南あそから荒尾に引っ越しをしました。それは、大きな地しんがあつて、家の中がこわれてしまったからです。お料理をするところや、みんなでごはんを食べるところがこわれました。2か月くらいは、広い体育館で、たくさんの人とすごしていましたが、お母さんが子どものころにすんでいた家の近くの荒尾に引っこすことになりました。

荒尾のようち園で、すぐに友だちができたから、さびしくありませんでした。あかねちゃんとおおなちゃんとおおいちゃんです。ようち園の先生も「家がこわれて、かなしいね。」と、やさしく言ってくれて、たくさん遊んでくれました。今も、お友だちがふえて、たのしいです。

9月7日の土曜じゅぎょうは、いのちを大切にすることを考える日で、どうとくで学習したことになっていました。1時間目に「こんなときどうする？」の、さいがいがおきたときのこう動を、みんなで考えました。2時間目から地しんひなんくんれんがあつて、そのあと、お家の人に、わたしたちの命を引きわたすくんれんがありました。くんれんだったけど、本とうに、さいがいがおきた時みたいに、お家の人や地いきの人たちが学校に集まってきました。先生たちは、赤い服をきていました。わたしは、少しドキドキしながら、放送や、先生たちの話をよく聞いて、家の近くの公みん館まで、いっしょに帰りました。

公みん館長さんのお話を聞いて、家に帰ろうとした時、お母さんと、たんにんの先生が話をしていました。お母さんは、「つばきには、あそのことをわすれてほしくないんですよね。つばきがそだった、あの家のことも。」と、話していました。

どうとくの「大切な いのち」の学しゅうで、「いのちを大切にするために、自分にできること」を考えたとき、わたしは、「みんなのたちばにたつて、考えることです。」と言ったけど、地しんひなんくんれんをして、考えがふえました。それは、ひなんくんれんをみんなでがんばることや、はるかのひまわりのたねをつぎの二年生にわたすことや、こまっている人を見つけられるようにまわりを見ることです。それから、おじいちゃんをつくったブランコのことを、わすれないでいることです。

わたしは、いのちを大切にするために、自分にできることを、たくさんふやしていこうと思います。